

歴史まち歩き

数多くの俳句と 門弟を残した 松尾芭蕉ゆかりの地

鳴海は東海道40番目の宿場町。天保14年(1843年)の宿勢では、本陣1、脇本陣2、旅籠68、総家数847軒、人口3,643人で、東海道を行きかう多くの旅人で賑わいました。松尾芭蕉は幾度も鳴海宿に立ち寄っていて、芭蕉が残した数多くの俳句と足跡が残されています。

3 東海道 鳴海宿 コース【名鉄鳴海駅▶名鉄鳴海駅】

1 浅間神社
祭神は木花開耶姫命。1737年に鳴海八幡宮の御旅所となりました。通称浅間堂。境内には、火伏せ(防火)の神様である秋葉社が合祀されています。

2 復元高札場 札の辻跡
江戸時代は、東海道鳴海宿(現在の本町交差点の北東角)にあり、幕府や藩の法令などを周知する制札を掲示していました。現在の復元高札場は、平成21年に復元したものです。

3 誓願寺
1573年創建。千代倉家の菩提寺です。境内にある芭蕉最古の供養塔は、1694年如意寺で建碑されたもので、永井士前(永井荷風の曾祖父)によって移されました。同時に、細根山の芭蕉お手植えの杉古木で彫刻された芭蕉像をおさめる芭蕉堂が建立されました。

4 本陣跡
勅使・公家や、参勤交代で東海道をとおる大名など、身分の高い人が公的に宿泊するのが本陣です。鳴海本陣は1633年頃設置され、宿村大概帳によると、敷地678坪、建坪273坪にもなり、東海道随一の大宿泊施設でした。

5 如意寺(蛤地藏)
1059年に、ここから2.5kmほど北の上ノ山に青鬼山地蔵寺として創建され、1398年に長母寺の無住国師が現在の場所に移転、そして1413年に如意寺となりました。本尊は地蔵菩薩で、尾張六地藏第4番の蛤地藏さんとして親しまれています。

6 東福院
かつて鎌倉街道沿いにありましたが、寛永年間(1624~43年)に現在地に再興されました。山門は、鳴海城(根古屋城)の廃材で再建されたものです。山門の脇に観音堂があり、子宝観音として親しまれています。

7 長翁寺
古くは薬師山にあり、天正年間(1573~92年)に現在地に移されました。薬師堂の薬師如来像は織田信長の守護仏と伝えられており、織田有楽斎が当時に祀りました。

8 西の常夜燈
1792年に鳴海宿の西の入口に設置された常夜燈。東の入口の常夜燈とともに残されていて、全長1.5km以上にわたる宿場町・鳴海の面影をたどることができます。

9 光明寺(丹下砦跡)
1556年、現在地に移転。本尊の子安地蔵菩薩は弘法大師の御作との言い伝えがあります。寺の裏手は、1559年に織田信長が今川義元の尾張侵攻に対抗して築いた丹下砦の跡地です。

10 成海神社
熱田神宮と同時代の686年創建。日本武尊、宮實媛命、建稲種命を祀っています。鳴海の氏神さまとして「東宮さん」と古くから尊崇されてきました。1394年、鳴海城(根古屋城)築城のため現在地に移転。境内の游心亭には、芭蕉の句碑「初秋や海も青田の一みどり」があります。

11 天神社・鳴海城跡(根古屋城跡)
成海神社はこの地に創建され、鳴海城築城の際に移転しました。日本武尊はこの地から船を出したと伝えられており、日本武尊が詠んだ歌碑が建てられています。鳴海城は、桶狭間の戦いの時、今川義元配下の猛将・岡部元信が護り、最後まで落城せず、合戦後に義元的首と交換で明け渡されました。

12 万福寺
永享年間(1429~41年)の創建。本堂は、中興の連純和尚が1827年から25年かけて改築したものです。幕末尾張藩主徳川慶勝の直筆による扁額「鳴海寺」が残されています。名古屋の彫物師瀬川治助による本堂の欄間が見事です。

13 浄泉寺
1432年、鳴海荘の森山左近三郎吉勝によって、將軍足利義教の庇護のもと創建されました。本堂は1801年に建立されたもので、清須城下の廊下を移しためずらしい菱形天井が残されています。

14 瑞泉寺
1396年創建。山門は、宇治の黄檗宗万福寺の門を模したもので、県の重要文化財に指定されています。法堂の裏には龍王堂があり、龍神伝説がのこされています。徳川家康が近くを通りかかり休憩した際に、当寺に与えたといわれる香盤が保管されています。

15 曲尺之手(かねのて)
宿場町の中心付近で、道がクランクに曲がっているので、この名があります。敵の侵攻を防ぐため、わざと道を曲げたものです。

